



美術館でサッカートーク

国立西洋美術館に岡田元サッカー日本代表監督がやってくる!



馬淵
明子

国立西洋美術館長

1947年茅ヶ崎市生まれ。東京大学大学院人文科学研究科美術史専攻修士課程修了。同博士課程進学後、パリ第四大学大学院博士課程に留学。専門は西洋近代美術史。東京大学助手、国立西洋美術館学芸課主任研究官、日本女子大学人間社会学部教授等を経て、2013年に独立行政法人国立美術館理事長ならびに現職就任。文化審議会会長、ジャポニスム学会会長。無類のサッカー好きとして知られ、2014年日本サッカー協会副会長に就任、翌2015年より日本女子サッカーリーグ理事長も務める。主著に『美のヤヌステオフィール・トレと19世紀美術批評』スカイドア1992年（サントリー学芸賞）、『ジャポニスム—幻想の日本』ブリュッケ1997年（ジャポニスム学会賞）。ジャポニスム研究の第一人者として、国立西洋美術館で現在開催中の「北斎とジャポニスム」を自ら企画・監修する。



岡田
武史

FC今治 代表取締役会長
兼 公益財団法人日本サッカー協会 副会長

1956年大阪府生まれ。高校時代、早稲田大学在学中も年代別の日本代表に選ばれる。卒業後、古河電気工業サッカー部に所属し日本代表としても活躍した。引退後は、クラブチームでコーチを務め1997年日本代表監督に就任すると史上初のW杯本大会出場を果たす。その後、Jリーグクラブで監督を務め2007年には再び日本代表監督に就任。2010年W杯南アフリカ大会でチームをベスト16まで導くなど日本サッカー界を牽引してきた。中国での杭州绿城監督を経て、2014年からはFC今治のオーナーとなる。2016年日本サッカー協会副会長に就任。現在は日本サッカー界の「育成改革」、さらにチームのある今治から「地域創生」に意欲的に取り組んでいる。

国立西洋美術館の馬淵明子館長は、大のサッカー好きでも知られ、日本サッカー協会副会長、日本女子サッカーリーグの理事長も務めています。今回は馬淵館長が元サッカー日本代表監督の岡田武史さん（FC今治代表取締役会長 兼 日本サッカー協会副会長）をお招きして、サッカーから美術まで幅広く語ります。

ヨーロッパ遠征の際には美術館を訪れることもあるという岡田さん。岡田さん流の美術の楽しみ方、また、現在会長を務めるFC今治を拠点とした日本サッカー界の「育成改革」、そして地域に根差した活動など、これまで日本サッカーを牽引してきた岡田さんの最新の活躍についてもお話しいたします。また、開催中の「北斎とジャポニスム」の監修から実務作業まで担当した馬淵館長が「北斎とジャポニスム」展の見どころ、そして美術館の楽しみ方についてお話します。サッカーファンも、美術ファンも楽しめるトークショーです。お楽しみに！

日 2017年11月24日（金）
時 19:00～20:00（開場は30分前より）

会 国立西洋美術館 講堂（企画展示館地下2階）
場 定員130名 ※当日、18:00より館内で整理券を配付いたします。定員に達した際にはご入場いただけません。

入場
無料

※ やむを得ない事情により、内容を変更または中止する場合がございますので予めご了承ください。

北斎と HOKUSAIが 西洋に与えた衝撃 ジャポニスム

[企画展示室]

2017年10月21日(土)
— 2018年1月28日(日)

休館日：月曜日(ただし、1月8日(月)は開館)、
2017年12月28日(木)~2018年1月1日(月)、1月9日(火)

[公式サイト] <http://hokusai-japonisme.jp>

(左) クロード・モネ《陽を浴びるポプラ並木》1891年 油彩、カンヴァス 国立西洋美術館(松方コレクション)
(右) 葛飾北斎《富嶽三十六景 東海道程ヶ谷》1830-33(天保元-4)年頃 横大判錦絵 ミネアポリス美術館
Minneapolis Institute of Art, Bequest of Richard P. Gale 74.1.237 Photo: Minneapolis Institute of Art

19世紀後半、日本の美術が、西洋で新しい表現を求める芸術家たちを魅了し、“ジャポニスム”という現象が生まれました。なかでも最も注目されたのが、天才浮世絵師・葛飾北斎(1760-1849)。その影響は、モネやドガら印象派の画家をはじめとして欧米の全域にわたり、絵画、版画、彫刻、ポスター、装飾工芸などあらゆる分野に及びました。本展は西洋近代芸術の展開を“北斎とジャポニスム”という観点から編み直す、日本発・世界初の展覧会です。国内外の美術館や個人コレクターが所蔵するモネ、ドガ、セザンヌ、ゴーガンをつくめた西洋の名作約220点と、北斎の錦絵約40点、版本約70点の計約110点(出品点数は予定、会期中展示替えあり)を比較しながら展示します。北斎という異文化との出会いによって生み出された西洋美術の傑作の数々を堪能しながら、西洋の芸術家の眼を通して北斎の新たな魅力も感じていただけることでしょう。

[版画素描展示室(新館2階)]

《地獄の門》への道—ロダン素描集『アルバム・フナイユ』

2017年10月21日(土)~2018年1月28日(日)

《地獄の門》制作に取り組み始めたロダンはまず、ダンテの『神曲』「地獄篇」をめぐる大量のデッサンを描いた。1897年に出版された大型素描集『オーギュスト・ロダンのデッサン』(『アルバム・フナイユ』)は、そのうちの142点をフォトグラヴィールによって複製したもので、ロダン自身が制作プロセスに深く加わり、後の「画家本」の先駆ともいわれる。《地獄の門》の関連彫刻作品とともに、この素描集の全図版を紹介する。



《復讐の女神エリニースの一人》
国立西洋美術館

国立西洋美術館 The National Museum of Western Art

国立西洋美術館ではフランス近代の絵画・彫刻を中心とした「松方コレクション」を基礎とし、14世紀から20世紀半ばまでの西洋の美術作品の展示を行っています。昨年7月、「ル・コルビュジエの建築作品—近代建築運動への顕著な貢献—」の構成資産のひとつとして世界文化遺産に登録されました。

JR上野駅下車(公園口出口)徒歩1分
京成電鉄京成上野駅下車徒歩7分
東京メトロ銀座線、日比谷線上野駅下車徒歩8分
※美術館には駐車場はございません。

お問い合わせ 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

国立西洋美術館ホームページ <http://www.nmwa.go.jp/>

金曜日・土曜日は 20:00 まで開館 (入場は 19:30 まで) ※ただし、11月18日(土)は 17:30 まで (入場は 17:00 まで)